

## **Sun Server X2-4 (旧 Sun Fire X4470 M2)**

Linux オペレーティングシステムインストールガイド

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS. Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用了ことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

# 目次

---

はじめに .....	7
パート I x86 サーバーへの Linux ソフトウェアのインストール .....	9
1 Oracle Hardware Installation Assistant を利用した OS のインストール .....	11
Oracle Hardware Installation Assistant タスクの概要 .....	12
Oracle Hardware Installation Assistant の入手方法 .....	12
Oracle Hardware Installation Assistant のドキュメントリソース .....	13
2 はじめに .....	15
サポートされる Linux オペレーティングシステム .....	15
Linux インストールの前提条件 .....	16
Linux のインストールタスクの概要 .....	17
3 Oracle Linux のインストール .....	19
Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux .....	19
ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Linux 5 のインストール .....	20
始める前に .....	21
PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Linux 5 のインストール .....	25
始める前に .....	25
Oracle Linux インストール後のタスク .....	27
TPM のサポートの構成 .....	27
Oracle Linux の登録と自動更新の有効化 .....	27
ローカルまたはリモートコンソールを使用した Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール .....	27
始める前に .....	27

<b>4 SUSE Linux Enterprise Server のインストール</b> .....	31
ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 SP1 のインストール .....	31
始める前に .....	32
PXE ネットワーク環境を使用した SLES 11 SP1 のインストール .....	37
始める前に .....	37
SLES インストール後のタスク .....	39
SLES オペレーティングシステムの更新 .....	39
TPM のサポートの構成 .....	40
<b>5 Red Hat Enterprise Linux のインストール</b> .....	41
ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール .....	41
始める前に .....	42
PXE ネットワーク環境を使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール .....	44
始める前に .....	45
RHEL インストール後のタスク .....	47
RHEL の登録と自動更新の有効化 .....	47
TPM のサポートの構成 .....	47
Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール .....	47
<b>6 サーバーファームウェアとソフトウェアの入手</b> .....	49
ファームウェアとソフトウェアの更新 .....	49
ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション .....	50
入手可能なソフトウェアリリースパッケージ .....	50
ファームウェアとソフトウェアへのアクセス .....	51
▼ My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード ....	51
物理メディアのリクエスト .....	52
更新のインストール .....	55
ファームウェアのインストール .....	55
ハードウェアドライバと OS ツールのインストール .....	56

---

パート II	Linux システム管理者のためのリファレンス .....	57
A	サポートされるインストール方法 .....	59
	コンソール出力 .....	59
	インストールブートメディア .....	61
	インストール先 .....	64
B	サポートされているオペレーティングシステム .....	67
	サポートされているオペレーティングシステム .....	67
C	新規インストール時の BIOS のデフォルト設定 .....	69
	BIOS の出荷時デフォルト設定の確認 .....	69
	始める前に .....	69
	索引 .....	73



# はじめに

---

この設置ガイドでは、Linux オペレーティングシステムをインストールおよび構成する手順を説明します。

---

注 - Sun Server X2-4 は以前は Sun Fire X4470 M2 サーバーという名前でした。この以前の名前が、まだソフトウェアに表示されることがあります。新しい製品名は、システム機能の変更を示すものではありません。

---

このドキュメントは、サーバーシステムを理解しているシステム管理者、ネットワーク管理者、およびサービス技術者を対象としています。

- [7 ページの「最新のソフトウェアとファームウェアの入手」](#)
- [7 ページの「このドキュメントについて」](#)
- [8 ページの「関連ドキュメント」](#)
- [8 ページの「フィードバック」](#)
- [8 ページの「サポートとアクセシビリティ」](#)

## 最新のソフトウェアとファームウェアの入手

Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシのファームウェア、ドライバ、およびその他のハードウェア関連ソフトウェアは、定期的に更新されています。

手順については、[第6章「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」](#)を参照してください。

## このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF バージョンを生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

## 関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle ドキュメント	<a href="http://www.oracle.com/documentation">http://www.oracle.com/documentation</a>
Sun Server X2-4	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunFireX4170M3">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunFireX4170M3</a>
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30</a>
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 (Sun Server X2-4 ソフトウェアリリース 1.3 以上用)	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31</a>
Oracle Hardware Installation Assistant	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia</a>

## フィードバック

次でこのドキュメントについてのフィードバックをお送りいただけます。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

## サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	<a href="http://support.oracle.com">http://support.oracle.com</a>
	聴覚障害の方へ: <a href="http://www.oracle.com/accessibility/support.html">http://www.oracle.com/accessibility/support.html</a>
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	<a href="http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html">http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html</a>



## パート I

# x86 サーバーへの Linux ソフトウェアのインストール

このセクションでは Oracle の Sun Server X2-4 に Linux オペレーティングシステムをインストールする方法についてのトピックをリストします。

説明	リンク:
初心者または経験を積んだユーザー: Oracle Hardware Installation Assistant を使用して、Linux オペレーティングシステムの補助付きインストールを実行します。Oracle Hardware Installation Assistant は適切なシステムドライバとプラットフォームに固有のソフトウェアを提供します。	<a href="#">第 1 章「Oracle Hardware Installation Assistant を利用した OS のインストール」</a> 、Oracle Hardware Installation Assistant を利用した OS のインストール

説明	リンク:
経験を積んだユーザー。Linux オペレーティングシステムと必要なシステムドライバを手動でインストールします。	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <a href="#">第 2 章「はじめに」</a>、はじめに</li><li>■ <a href="#">第 3 章「Oracle Linux のインストール」</a>、Oracle Enterprise Linux のインストール</li><li>■ <a href="#">第 4 章「SUSE Linux Enterprise Server のインストール」</a>、SUSE Enterprise Linux のインストール</li><li>■ <a href="#">第 5 章「Red Hat Enterprise Linux のインストール」</a>、Red Hat Enterprise Linux のインストール</li></ul>
リファレンス:これらのトピックを必要に応じて参照し、Linux オペレーティングシステムのインストールを実行または完了します。	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <a href="#">付録 A「サポートされるインストール方法」</a>、インストール方法</li><li>■ <a href="#">付録 B「サポートされているオペレーティングシステム」</a>、サポートされているオペレーティングシステム</li><li>■ <a href="#">付録 C「新規インストール時の BIOS のデフォルト設定」</a>、新規インストール時の BIOS のデフォルト設定</li></ul>

# Oracle Hardware Installation Assistant を利用した OS のインストール

---

Oracle Hardware Installation Assistant はオペレーティングシステムのインストールを容易にします。Oracle Hardware Installation Assistant を使用すると、使用しているサーバーでサポートされている Linux または Windows OS ディストリビューションメディアのライセンスを受けたコピーがあれば、すぐにインストールを開始できます。Oracle Hardware Installation Assistant がすべてのソフトウェアとサーバー固有の必須のドライバを提供します。グラフィカルなウィザードのインタフェースと柔軟なインストールオプションにより、Oracle Hardware Installation Assistant はサーバーの配備を簡単にし、配備の速度と信頼性を向上させます。

Oracle Hardware Installation Assistant を使用するには、単純にサーバーの CD ドライブ、USB フラッシュドライブ、またはネットワークイメージから Oracle Hardware Installation Assistant プログラムをブートします。利用可能な Oracle Hardware Installation Assistant の最新の更新を確認してください。使用する OS のディストリビューションをメニューから選択し、画面に表示される指示に従います。Oracle Hardware Installation Assistant はシステムをスキャンして、サーバーコンポーネントを構成するために必要なドライバがあることを確認します [1]。また、利用可能な最新のドライバを Oracle Hardware Installation Assistant から確認するオプションも用意されています。Oracle Hardware Installation Assistant は、必要なときに適切なメディア、または OS のインストール中に必要なその他の情報 (ライセンスキーなど) の入力を要求します。

---

注-[1] 一部のオプションカードのドライバは、サーバーにはダウンロードされますが、手動によるインストールが必要となります。Oracle Hardware Installation Assistant の機能は定期的に強化されるので、Oracle Hardware Installation Assistant の情報が記載されたページ (<http://www.oracle.com/goto/hia>) を参照し、最新の更新とサポートされる機能を確認してください。

---

この章で説明するトピックは次のとおりです。

- 12 ページの「Oracle Hardware Installation Assistant タスクの概要」

- 12 ページの「Oracle Hardware Installation Assistant の入手方法」
- 13 ページの「Oracle Hardware Installation Assistant のドキュメントリソース」

## Oracle Hardware Installation Assistant タスクの概要

Oracle Hardware Installation Assistant を使用すると、次のタスクを実行できます。

---

注-以降に示す、サポートされている Oracle Hardware Installation Assistant のインストールおよび復旧タスクは、サーバーによって異なる場合があります。

---

- Oracle の Sun x86 サーバーへの Linux または Windows オペレーティングシステムの補助付きインストールの実行。Oracle Hardware Installation Assistant から適切なドライバとプラットフォームに固有のソフトウェアが提供されるため、ドライバディスクを別に作成する必要がありません。
- オプションで、内部ストレージデバイスでの RAID-0 または RAID-1 ボリュームを作成します。
- オプションで、サーバーの OS にかかわらず、システムの Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) サービスプロセッサ (SP)、BIOS、およびストレージデバイスのファームウェアをアップグレードします。
- オプションで、最新のファームウェアとドライバを使用した Oracle Hardware Installation Assistant セッションを更新します。
- オプションで、破損しているかアクセス不能の Oracle ILOM サービスプロセッサを回復します。

## Oracle Hardware Installation Assistant の入手方法

Oracle Hardware Installation Assistant はほとんどの Sun Server X2-4 に付属しており、CD フォーマットまたは Web ダウンロードで入手可能です。OS の最新のバージョンをサポートするように、定期的な更新を利用できます。各プラットフォームサーバー用の最新バージョンの Oracle Hardware Installation Assistant は、次からダウンロードできます。

<https://support.oracle.com>

# Oracle Hardware Installation Assistant のドキュメントリソース

Oracle Hardware Installation Assistant を使用して Sun x86 サーバーに Windows または Linux オペレーティングシステムをインストールする場合は、次のドキュメントで詳細なインストール手順を参照してください。

- Oracle Hardware Installation Assistant 2.5 ユーザーズガイド x86 サーバー版  
<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia>



## はじめに

---

この章では、Linux オペレーティングシステムをサーバーに手動でインストールする方法の概要について説明します。

---

注- この場合の「手動」とは、Oracle Hardware Installation Assistant を使用せずに、このガイドで説明する手順に従ってインストールを実行するという意味です。Oracle Hardware Installation Assistant を使用して補助付きの Linux インストールを実行する場合は、このガイドの第 1 章「[Oracle Hardware Installation Assistant を利用した OS のインストール](#)」を参照してください。

---

この章で説明するトピックは次のとおりです。

- 15 ページの「サポートされる Linux オペレーティングシステム」
- 16 ページの「Linux インストールの前提条件」
- 17 ページの「Linux のインストールタスクの概要」

## サポートされる Linux オペレーティングシステム

Sun Server X2-4 は、次の Linux オペレーティングシステムをサポートします。

Linux OS	版
Oracle	Oracle Linux 5.5 - 6.2 (64 ビット)
	Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux 5.6 - 6.1
SUSE	SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP1 (64 ビット)
	SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP2 (64 ビット)
Red Hat	Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5 - 6.0 (64 ビット)

Sun Server X2-4 上でサポートされているすべてのオペレーティングシステムの完全な更新済みの一覧については、Sun x86 サーバーの Web サイトにアクセスし、Sun Server X2-4 のページを参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>

# Linux インストールの前提条件

サーバーへの Linux オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の重要な注意事項について確認してください。

表 2-1 Linux オペレーティングシステムのインストールの前提条件

要件	説明	詳細は、次を参照してください。
サーバーがセットアップされ稼働している	サーバーがラックに設置されて電源が投入され、SP との通信が確立しています。	■ Sun Server X2-4 設置ガイド
Linux インストールプログラムをブートできるように配備方法が設定されている	Linux オペレーティングシステムのインストールを配備するためのガイドライン。	■ 付録 A 「サポートされるインストール方法」
RAID ボリュームの作成	<p>ブートドライブを RAID 構成の一部にする場合は、ドライブで RAID ボリュームを設定する必要があります。オペレーティングシステムをインストールする前に、LSI 統合 RAID コントローラのセットアップユーティリティーを使用します。</p> <p>オプションの SGX-SAS6-R-INT-Z ホストバスアダプタを使用している場合、LSI 統合 RAID コントローラの構成ユーティリティーを使用して、RAID ボリュームを構成する必要があります。手順については、『LSI MegaRAID SAS Software User's Guide』を参照してください。オプションの SGX-SAS6-INT-Z HBA を使用している場合、BIOS 構成ユーティリティーを使用して、RAID ボリュームを構成する必要があります。手順については、『Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA 設置ガイド』を参照してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 『LSI MegaRAID Software SAS User's Guide』： <a href="http://www.lsi.com/support/sun/">http://www.lsi.com/support/sun/</a></li><li>■ <a href="http://docs.oracle.com/cd/E19337-01/E22494.pdf">http://docs.oracle.com/cd/E19337-01/E22494.pdf</a> にある『Sun Storage 6 Gb SAS 内蔵 HBA 設置ガイド』</li></ul>
OS の新規インストール時の BIOS 設定の検証	Linux オペレーティングシステムをインストールする前に、BIOS が出荷時のデフォルトプロパティに設定されていることを確認するようにしてください。	■ 付録 C 「新規インストール時の BIOS のデフォルト設定」



表 2-1 Linux オペレーティングシステムのインストールの前提条件 (続き)

要件	説明	詳細は、次を参照してください。
Linux ベンダーのドキュメント	Linux のインストールに適切なベンダーのドキュメントを入手します。  ベンダーのドキュメントを、このガイドで説明するインストール手順と一緒に使用することをお勧めします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <a href="http://www.novell.com/documentation/suse">http://www.novell.com/documentation/suse</a></li> <li>■ <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/</a></li> </ul> <p>注 - Oracle Linux と Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール手順については、このドキュメントの第 3 章「Oracle Linux のインストール」で説明しています。</p>
ツールとドライバのファームウェア	サーバーに付属している Tools and Drivers Firmware を用意する必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <a href="http://support.oracle.com">http://support.oracle.com</a></li> </ul>
最新情報の入手	サポートされているオペレーティングシステムソフトウェアおよびパッチについては、『Sun Server X2-4 プロダクトノート』を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Sun Server X2-4 プロダクトノート</li> </ul>

## Linux のインストールタスクの概要

Linux オペレーティングシステムをインストールするには、次に示すタスクをすべて順番に実行します。

1. Linux オペレーティングシステムのインストールメディアとドキュメントを入手します。Linux のインストールプログラムは、適切なベンダーの Web サイトからダウンロードできます。次に例を示します。
  - Oracle Linux の場合: <http://edelivery.oracle.com/linux>
  - SUSE Linux Enterprise Server の場合: <http://www.novell.com>
  - Red Hat Enterprise Linux の場合: <http://www.redhat.com>
2. 必要であれば、オプションの Documentation and Media Kit DVD で提供される Tools and Drivers Firmware を入手するか、または、第 6 章「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参考にして、サーバーで使用できる最新のドライバをダウンロードします。
3. 付録 A 「サポートされるインストール方法」を参考にして、Linux を配備するためのインストール方法を選択し設定します。

4. 次で説明する手順に従って、Linux Server オペレーティングシステムの手動インストールを実行します。
  - [第3章「Oracle Linux のインストール」](#) (Oracle Linux)
  - SUSE Linux Enterprise Server の場合: [第4章「SUSE Linux Enterprise Server のインストール」](#)
  - Red Hat Enterprise Linux の場合: [第5章「Red Hat Enterprise Linux のインストール」](#)
5. 次で説明するオペレーティングシステムに固有の手順に従って、インストール後のタスクを実行します。
  - [27 ページの「Oracle Linux インストール後のタスク」](#)
  - [39 ページの「SLES インストール後のタスク」](#)
  - [47 ページの「RHEL インストール後のタスク」](#)

## Oracle Linux のインストール

---

この章では、x86 (64 ビット) 用の Oracle Linux および Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストールについて説明します。

---

注 - サーバーに Oracle Linux オペレーティングシステムをインストールする場合は、Oracle Hardware Installation Assistant を使用することを強くお勧めします。このインストールアシスタントを使用すると、必要に応じて、デバイスドライバをインストールできます。Oracle Hardware Installation Assistant を使用してオペレーティングシステムをインストールする方法については、[第 1 章「Oracle Hardware Installation Assistant を利用した OS のインストール」](#)を参照してください。

---

この章は、次の項目で構成されています。

- 19 ページの「Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux」
- 20 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Linux 5 のインストール」
- 25 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Linux 5 のインストール」
- 27 ページの「Oracle Linux インストール後のタスク」
- 27 ページの「ローカルまたはリモートコンソールを使用した Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール」

## Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux は、Oracle Linux 5.5 以降のリリース、または Red Hat Enterprise Linux 5.5、6.0 以降のリリースにインストールできる推奨のカーネルです。2.6.32 Linux カーネルに基づくこの新しいカーネルは、Oracle によって最適化されているので、安定性と最適性能が保証されています。2.6.32 メインラインカーネルに追加されたすべてのパッチはオープンソースです。

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux は、要求のきびしい環境で安定性、信頼性、および性能の向上を実証しています。このカーネルは、Oracle の Exadata および

Exalogic システムで使用されます。さらに、Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux は、Oracle が参加している Linux のすべてのベンチマーク、および Oracle の検証済み構成プログラムで現在使用されています。

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux は、Oracle Linux 5.7 および 5.8 (デフォルト) や Red Hat Enterprise Linux 5.7 および 5.8 上に直接インストールされるので、Linux オペレーティングシステムの新しいメジャーリリースにアップグレードしなくても、この新規カーネルの利点と機能を使用できます。この新しいカーネルをインストールしたあとで、Red Hat Enterprise Linux カーネルに戻したり、これらの 2 つのカーネルを交互に切り替えたりするオプションも用意されています。

また Oracle は、Linux 環境 (特に Oracle ソフトウェアを稼働させている場合) への、&ProductName\_oracle\_unbreakable\_kernel の配備を強くお勧めします。ただし、Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux はオプションであり、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) との厳密な互換性を求めるお客様のために、Oracle Linux には、RHEL のソースコードから直接コンパイルされた、Red Hat と互換性があるカーネルが引き続き含まれます。また、サードパーティー製のソフトウェアやハードウェアを使用するお客様には、この新しいカーネルをお勧めします。

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux の利点と機能の詳細については、次を参照してください。

<http://www.oracle.com/us/technologies/linux/ubreakable-enterprise-kernel-linux-173350.html>

## ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Linux 5 のインストール

次の手順では、Oracle Linux オペレーティングシステムをローカルメディアまたはリモートメディアからブートする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから Oracle Linux のインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle Linux 5.5 (またはそれ以降のリリース) の CD または DVD セット (内蔵または外付け CD/DVD)
- Oracle Linux 5.5 (またはそれ以降のリリース) の ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

---

注 - PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[25 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Linux 5 のインストール」](#)で手順を確認してください。

---

## 始める前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- オペレーティングシステムをインストールするための該当するインストール前提条件をすべて満たしている必要があります。これらの前提条件については、[第2章「はじめに」](#)を参照してください。
- インストールの実行前に、使用するインストール方法(コンソール、ブートメディア、インストール先など)を決定して、設定が完了している必要があります。これらの設定に関する要件については、[付録A「サポートされるインストール方法」](#)を参照してください。

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要なタスクを確認して実行する必要があります。詳細については、[27 ページの「Oracle Linux インストール後のタスク」](#)を参照してください。Oracle Linux 5.5 以降のリリースに Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールすることもできます。詳細は、[27 ページの「ローカルまたはリモートコンソールを使用した Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール」](#)を参照してください。

### ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Linux 5 のインストール

- 1 インストールメディアがブートできることを確認します。
  - ディストリビューション CD/DVD の場合。ローカルまたはリモート USB CD/DVD-ROM ドライブに、**Oracle Linux 5** 配布メディアブートディスク(番号 1 が付いた CD、または単一の DVD)を挿入します。
  - ISO イメージの場合。ISO イメージが使用できること、およびブートディスクイメージ(番号 1 が付いた CD、または DVD)が **Oracle ILOM** リモートコンソールアプリケーションで選択されていること(「Devices」メニュー>「CD-ROM Image」)を確認します。
  - インストールメディアの設定方法については、[61 ページの「インストールブートメディア」](#)を参照してください。
- 2 サーバーの電源をリセットします。

---

注- 次の手順では、Oracle ILOM 3.1 コマンド構文を使用します。Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> で Oracle ILOM 3.0 ドキュメントコレクションを参照してください。

---

例:

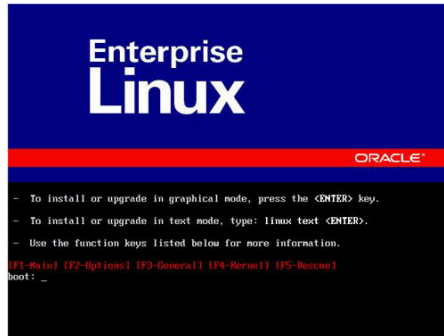
- **Oracle ILOM Web** インタフェースから、ナビゲーションツリーで「**Host Management**」>「**Power Control**」を選択します。次に、「**Select Action**」リストボックスから「**Reset**」を選択して、「**Save**」をクリックします。
- ローカルサーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒押し、サーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
- サーバー SP の **Oracle ILOM CLI** で、次のように入力します。 **reset /System**  
BIOS 画面が表示されます。

---

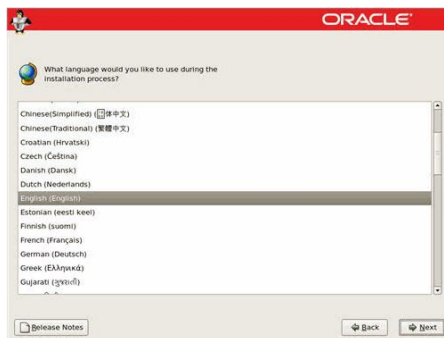
注- 次のイベントがすぐに発生するため、次のステップでは集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

- 3 BIOS 画面で **F8** を押して、**Oracle Linux** インストール用の一時ブートデバイスを指定します。  
「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。
- 4 「**Boot Device**」メニューで、最初のブートデバイスとして **external** または **virtual CD/DVD** デバイスを選択して、**Enter** を押します。  
「Boot Device」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 *ID* 文字列で構成されています。  
数秒後、Oracle Linux 5 インストールのスプラッシュ画面が表示されます。スプラッシュ画面の下半分に、説明、ファンクションキー、およびブートプロンプトが表示されます。
- 5 **Oracle Linux** のスプラッシュ画面で、**Enter** を押して標準的な対話式インストールを続けます。  
または、テキストモードで、次のコマンドを入力します。  
**boot: linux text**



- 6 「Language」画面で、適切な言語を選択して、「Next」をクリックします。



「Keyboard Type」画面が表示されます。

- 7 「Keyboard Type」画面で、適切なキーボード構成を選択してから、「Next」をクリックします。

「Installation Method」画面が表示されます。

- 8 「インストール方法」画面で、適切なインストール方法(「Local CDROM」または「NFS Image」)を選択し、「OK」をクリックします。

「CD Found」画面が表示されます。

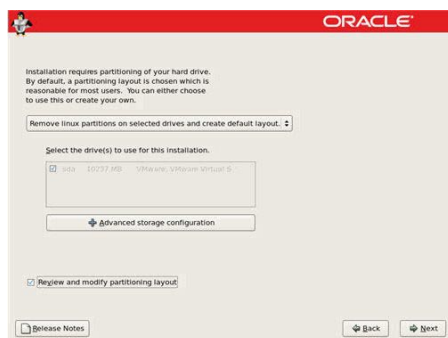
- 9 「CD Found」画面で、「skip」をクリックします。

「Oracle Linux 5」画面が表示されます。

- 10 「Oracle Linux 5」画面で、「Next」をクリックします。

「Installation Number」ダイアログが表示されます。

- 11 「Installation Number」ダイアログで、「インストール番号」を入力するか「Skip entering installation number」をクリックし、「OK」をクリックします。  
「Disk Partition Setup」画面が表示されます。
- 12 「Disk Partition Setup」画面で、次の手順に従います。
  - a. 「Remove Linux partition on selected drives and create default layout」のオプションを選択するか、Disk Druid の「Create custom layout」オプションを使用して手動でディスクをパーティションに分割し、「Next」をクリックします。



- b. Oracle Linux のディスクパーティション分割画面に表示される手順を参照して、必要に応じてディスクをパーティションに分割します。

---

注 - Oracle Solaris OS または Oracle VM がディスクにインストール済みの場合は、ディスクをパーティションに分割してインストール済みの OS を削除したり、インストール済みの OS を削除せずにディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートしたりすることもできます。

---

- 13 画面上の指示に従って、Oracle Linux インストールの基本設定を続行します。

---

注 - 詳細なインストール手順については、<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise> にある『Red Hat Enterprise Linux: Installation Guide』を参照してください。

---

- 14 Oracle Linux インストールの基本設定が完了したら、次に示すインストール後のタスクを実行します。
  - a. 27 ページの「Oracle Linux インストール後のタスク」の説明に従って、インストール後タスクを実行します。



- b. (オプション) Oracle Linux 5 Update 5 オペレーティングシステム上に **Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux** をインストールします。

インストール手順については、[27 ページの「ローカルまたはリモートコンソールを使用した Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール」](#)を参照してください。

## PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Linux 5 のインストール

このセクションでは、PXE ネットワーク環境から Oracle Linux 5 をブートする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle Linux 5.5 CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- Oracle Linux 5.5 の ISO DVD イメージまたは KickStart イメージ (ネットワークリポジトリ)

---

注-KickStart は自動インストールツールです。これによりシステム管理者は、通常は一般的な Oracle Linux のインストール中に入力される、インストールと構成のパラメータの一部またはすべての設定を含めた、単一のイメージを作成できます。通常、KickStart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストール時に複数のシステムによって読み取られます。

---

### 始める前に

Oracle Linux PXE インストールを実行する前に、次の要件を満たす必要があります。

- KickStart イメージを使用してインストールを行う場合、次の操作が必要です。
  - KickStart ファイルを作成します。
  - KickStart ファイルを含むブートメディアを作成したり、ネットワーク上で KickStart ファイルを使用したりできるようにします。
- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の操作が必要です。
  - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。
  - PXE のブートに必要なファイルを TFTP サーバー上に構成します。
  - PXE 構成からブートするように、サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
  - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を構成します。

次にある『Red Hat Enterprise Linux 5: System Administration Guide』の PXE ネットワークインストール手順に従ってください。

<http://www.redhat.com/docs>

## ▼ PXE ネットワークブートを使用した **Oracle Linux 5** のインストール

- 1 **PXE** ネットワーク環境が正しく設定され、**Oracle Linux** のインストールメディアを **PXE** ブートで利用できることを確認します。
- 2 サーバーの電源をリセットします。

---

注- 次の手順では、Oracle ILOM 3.1 コマンド構文を使用します。Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> で Oracle ILOM 3.0 ドキュメントコレクションを参照してください。

---

例:

- **Oracle ILOM Web** インタフェースから、ナビゲーションツリーで「**Host Management**」>「**Power Control**」を選択します。次に、「**Select Action**」リストボックスから「**Reset**」を選択して、「**Save**」をクリックします。
- **Oracle** ローカルサーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押してサーバーの電源を切断し、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を投入します。
- サーバー **SP** の **ILOM CLI** で、次のように入力します。 **reset /System**

BIOS 画面が表示されます。

---

注- 次のイベントがすぐに発生するため、次のステップでは集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

- 3 **BIOS** 画面で、**F8** キーを押して、一時ブートデバイスを指定します。  
「Please Select Boot Device」メニューが表示され、使用可能なブートデバイスが一覧表示されます。
- 4 「**Boot Device**」メニューで、**PXE** ネットワークインストールサーバーと通信するように構成されたネットワークポートを選択します。  
ネットワークブートローダーが読み込まれ、ブートプロンプトが表示されます。数秒後、インストールカーネルの読み込みが開始されます。

- 5 インストールを完了するには、21 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Linux 5 のインストール」の手順5を参照してください。

## Oracle Linux インストール後のタスク

Oracle Linux インストールの完了後、次に示すインストール後のタスクを確認し、必要に応じて、使用しているシステムに該当するタスクを実行してください。

- 27 ページの「TPM のサポートの構成」
- 27 ページの「Oracle Linux の登録と自動更新の有効化」

### TPM のサポートの構成

Oracle Linux に用意されている Trusted Platform Module (TPM) 機能セットを使用する場合は、この機能をサポートするようにサーバーを構成する必要があります。手順については、サーバーのサービスマニュアルを参照してください。

- Sun Server X2-4 サービスマニュアル

---

注-TPM を使用すると、サーバーの TPM セキュリティーハードウェアを管理できます。この機能の実装については、Oracle Linux に用意されている TPM のドキュメントを参照してください。

---

### Oracle Linux の登録と自動更新の有効化

Oracle Linux をインストールしたあと、システムを Oracle に登録してサブスクリプションを有効にし、ソフトウェアの自動更新を受信するようにしてください。詳細は、Oracle Linux サポートを参照してください。

<http://www.oracle.com/us/technologies/linux/support-439829.html>

## ローカルまたはリモートコンソールを使用した Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール

### 始める前に

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールする前に、Oracle Linux 5.5 以降、あるいは Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5 または 6.0 をサーバーにインストールしておく必要があります。

## ▼ ローカルまたはリモートコンソールを使用した **Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux** のインストール

- 1 **Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux** をインストールする前に、システムで **Oracle Linux 5.5** 以降、あるいは **Red Hat Enterprise Linux 5.5** または **6.0** が動作していることを確認します。
- 2 システムで動作している **OS** に応じて、適切なリポジトリファイルのダウンロードおよび編集を実行します。

- **Oracle Linux 5.5** が動作している場合、次の手順を実行して、**Oracle Linux 5 Yum** リポジトリファイルのダウンロードと編集を行います。

a. `# cd /etc/yum.repos.d`

b. `# wget http://public-yum.oracle.com/public-yum-el5.repo`

c. エディタで `/etc/yum.repos.d/etc/public-yum-el5.repo` ファイルを開きます。

- d. `[el5_u5_base]` スタンザと `[ol5_u5_base]` スタンザを編集し、次のように `enabled=0` を `enabled=1` に変更します。

```
[el5_u5_base]
name=Enterprise Linux $releasever U5 - $basearch - base
baseurl=http://publicyum.
oracle.com/repo/EnterpriseLinux/EL5/5/base/$basearch/
gpgkey=http://public-yum.oracle.com/RPM-GPG-KEY-oracle-el5
gpgcheck=1
enabled=1
```

```
[ol5_u5_base]
name=Oracle Linux $releasever - U5 - x86_64 - base
baseurl=http://publicyum.
oracle.com/repo/OracleLinux/OL5/5/base/x86_64/
gpgkey=http://public-yum.oracle.com/RPM-GPG-KEY-oracle-el5
gpgcheck=1
enabled=1
```

- **Red Hat Enterprise Linux 6** が動作している場合、次の手順を実行して、**Oracle Linux 6 Yum** リポジトリファイルのダウンロードと編集を行います。

a. `# cd /etc/yum.repos.d`

b. `# wget http://public-yum.oracle.com/public-yum-ol6.repo`

c. エディタで `/etc/yum.repos.d/etc/public-yum-ol6.repo` ファイルを開きます。

- d. `[ol6_ga_base]` スタンザを編集し、次のように `enabled=0` を `enabled=1` に変更します。

```
[ol6_ga_base]
name=Oracle Linux 6 GA - $basearch - base
baseurl=http://public-yum.oracle.com/repo/OracleLinux/OL6/0/base/$basearch/
gpgkey=http://public-yum.oracle.com/RPM-GPG-KEY-oracle-ol6
gpgcheck=1
name=Oracle Linux 6 GA - $basearch - base
enabled=1
```

3 システムカーネルを更新するには、次のいずれかを実行します

- **Oracle Linux 5.5** が動作している場合、次の手順を実行して、システムカーネルを更新します。
    - システムカーネルを **Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux** に更新するには、次のコマンドを入力します。  

```
# yum install kernel
```

または
    - システムカーネルを **Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux** に更新し、関連するすべての推奨パッケージをアップグレードするには、次のコマンドを入力します。  

```
# yum install oracle-linux
```
  - **Red Hat Enterprise Linux 6** が動作している場合、次の手順を実行して、システムカーネルを更新します。
    - システムカーネルを **Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux** に更新するには、次のコマンドを入力します。  

```
# yum install kernel-uek
```

または
    - システムカーネルを **Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux** に更新し、関連するすべての推奨パッケージをアップグレードするには、次のコマンドを入力します。  

```
# yum update
```
- 4 新しくインストールした **Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux** を実行するには、システムをリブートします。

---

注 - Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux の詳細については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunServerX2-4> でプロダクトノートを参照してください。

---

# SUSE Linux Enterprise Server のインストール

---

この章では、x86 (64 ビット) 版 SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP1 (またはそれ以降のリリース) を Sun Server X2-4 にインストールする方法について説明します。

---

注 - サーバーに SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムをインストールする場合は、Oracle Hardware Installation Assistant を使用することを強くお勧めします。Oracle Hardware Installation Assistant を使用すると、必要に応じて、デバイスドライバをインストールできます。Oracle Hardware Installation Assistant を使用してオペレーティングシステムをインストールする方法については、[第 1 章「Oracle Hardware Installation Assistant を利用した OS のインストール」](#)を参照してください。

---

この章は、次の項目で構成されています。

- 31 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 SP1 のインストール」
- 37 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した SLES 11 SP1 のインストール」
- 39 ページの「SLES インストール後のタスク」

## ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 SP1 のインストール

次の手順では、SLES オペレーティングシステムをローカルメディアまたはリモートメディアからブートする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから SLES のインストールメディアをブートすることを前提とします。

- SLES 11 SP1 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- SLES 11 SP1 以降のリリースの ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

---

注 - PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[37 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した SLES 11 SP1 のインストール」](#) でブート手順を確認してください。

---

ローカルまたはリモートのメディアを使用して SLES をインストールする手順については、次のトピックを参照してください。

- [32 ページの「始める前に」](#)
- [32 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 SP1 のインストール」](#)

SLES のインストールについては、次にある Novell の SUSE Linux Enterprise Server のドキュメントコレクションを参照してください。

<http://www.novell.com/documentation/suse>

## 始める前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- このオペレーティングシステムをインストールするための前提条件をすべて満たしている必要があります。これらの前提条件については、[第 2 章「はじめに」](#)を参照してください。
- インストールを開始する前に、SLES インストールメディアをブートするためのインストール方法 (コンソール、ブートメディア、インストール先など) を決定して、設定が完了している必要があります。これらの設定に関する要件については、[付録 A「サポートされるインストール方法」](#)を参照してください。

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要なタスクを確認して実行する必要があります。詳細については、[39 ページの「SLES インストール後のタスク」](#)を参照してください。

### ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した **SLES 11 SP1** のインストール

- 1 インストールメディアをブートできることを確認します。
  - ディストリビューション CD/DVD の場合。ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、SLES 11 SP1 ブートディスク (番号 1 の付いた CD または DVD) を挿入します。



- ISO イメージの場合。SLES 11 SP1 ISO イメージが使用可能であり、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションでブートディスクイメージ(番号 1 の付いた CD または DVD) が選択されていることを確認します ( 「Devices」 > 「CD-ROM Image」 )。

インストールメディアを設定する方法の詳細については、[付録 A 「サポートされるインストール方法」](#) を参照してください。

## 2 サーバーの電源をリセットします。

---

注- 次の手順では、Oracle ILOM 3.1 コマンド構文を使用します。Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> で Oracle ILOM 3.0 ドキュメントコレクションを参照してください。

---

例:

- Oracle ILOM Web インタフェースから、ナビゲーションツリーで「Host Management」 > 「Power Control」を選択します。次に、「Select Action」 リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- ローカルサーバーの場合、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、次にもう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を投入します。
- サーバー SP 上の Oracle ILOM CLI で、次のように入力します。 `reset /System`

BIOS 画面が表示されます。

---

注- 次のイベントがすぐに発生するため、次のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

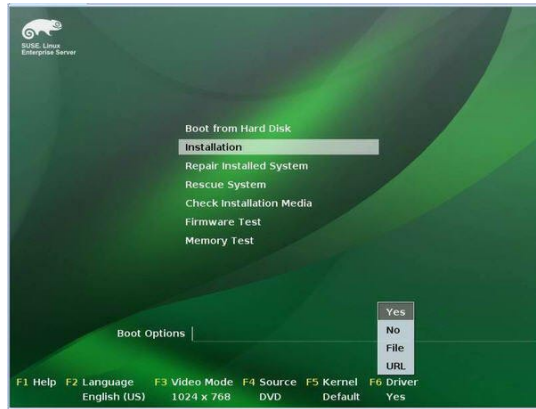
## 3 BIOS 画面で F8 を押して、SLES のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。

## 4 「Boot Device」メニューで、最初のブートデバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter を押します。

「Boot Device」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。

数秒後、最初の SUSE ブート画面が表示されます。



- 5 最初の SUSE ブートインストール画面で、2 番目のオプション「**Installation**」を選択し、**Enter** を押します。  
「Welcome」画面が表示されます。
- 6 「Welcome」画面で、次の手順を実行します。
  - 適切な言語を選択します。
  - キーボードレイアウトを選択します。
  - 使用許諾契約を読み、「**I Agree to the License Terms**」のチェックボックスをオンにします。

- 「Next」をクリックします。  
「System Probing」画面に進行状況バーが表示されます。システムの分析が完了したら、「Yast Installation Mode」画面が表示されます。



- 7 「Installation Mode」画面で「New Installation」を選択して、「Next」をクリックします。  
「Clock and Time Zone」画面が表示されます。
- 8 「Clock and Time Zone」画面で、適切な地域とタイムゾーンを選択して、「Next」をクリックします。  
「Server Base Scenario」画面が表示されます。
- 9 「Server Base Scenario」画面で「Physical Machine」を選択し、「Next」をクリックします。  
「Installation Settings」画面が表示されます。



## 10 「Installation Settings」画面で、次の手順を実行します。

- 「Next」をクリックして、表示されているインストール設定を受け入れます。  
または
- 「Change」をクリックして設定を編集し、「Next」をクリックしてインストール設定を受け入れます。

注-カスタムパーティションの作成方法、またはその他のインストール設定の編集方法については、Novell SLES 11 のドキュメントを参照してください。

「Confirm Package License」画面が表示されます。

## 11 「Confirm Package License」画面で、次の手順を実行します。

- 使用許諾契約を読みます。
- 「I Agree」をクリックします。
- 「Install」をクリックします。

「Confirm Installation」ダイアログが表示されます。

## 12 「Confirm Installation」ダイアログで、メッセージを読み、「Install」をクリックしてインストールを開始します。

「Perform Installation」ダイアログが表示されます。



## 13 SLES 11 OS のすべてのファイルがインストールされてシステムがリブートされるまで、インストールの基本セットアップを続行します。

- 14 基本的なインストールの設定が完了したら、**SLES 11** ドキュメントを参照して次のタスクを実行します。
  - a. 使用するアカウントのパスワードを作成します。
  - b. インターネットアクセスおよびネットワーク設定を構成してテストします。
  - c. OS を登録して、利用できる最新の更新をオペレーティングシステムにダウンロードします。
- 15 この章の後半で説明する、インストール後のタスクを確認し、必要に応じて実行します。

詳細は、[39 ページの「SLES インストール後のタスク」](#)を参照してください。

## PXE ネットワーク環境を使用した **SLES 11 SP1** のインストール

このセクションでは、PXE ネットワーク環境から SLES をブートする方法について説明します。次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- SLES 11 SP1 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- SLES 11 SP1 以降のリリースの ISO DVD イメージまたは AutoYaST イメージ (ネットワークリポジトリ)

AutoYaST を利用すると、SLES オペレーティングシステムを複数のシステムにインストールできます。AutoYaST を使用した自動インストールの準備方法については、次にある Novell SUSE のドキュメントコレクションを参照してください。

<http://www.novell.com/documentation/suse>

### 始める前に

PXE ネットワークブート環境から SLES のインストールを実行する前に、次の要件を満たす必要があります。

- AutoYaST を使用してインストールする場合は、次の操作が必要です。
  - AutoYaST プロファイルを作成します。

SUSE Linux Enterprise Server (10 または 11) のドキュメントの AutoYaST インストール手順に従います。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の操作が必要です。
  - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。
  - PXE のブートに必要なファイルを TFTP サーバー上に構成します。
  - PXE 構成からブートするように Sun Server X2-4 の MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
  - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を構成します。

SUSE Linux Enterprise Server のドキュメントに記載された、ネットワーク経由で SUSE メディアをブートするための設定手順に従います

この手順の完了後、39 ページの「SLES インストール後のタスク」のタスクを実行する必要がある場合があります。

## ▼ PXE ネットワークブートを使用した SLES 11 SP1 のインストール

- 1 PXE ネットワーク環境が正しく設定され、SLES のインストールメディアを PXE ブートで利用できることを確認します。
- 2 サーバーの電源をリセットします。

---

注 - 次の手順では、Oracle ILOM 3.1 コマンド構文を使用します。Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> で Oracle ILOM 3.0 ドキュメントコレクションを参照してください。

---

例:

- **Oracle ILOM Web** インタフェースから、ナビゲーションツリーで「**Host Management**」 > 「**Power Control**」を選択します。次に、「**Select Action**」リストボックスから「**Reset**」を選択して、「**Save**」をクリックします。
- ローカルサーバーの場合、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、次にもう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を投入します。
- サーバー SP の **Oracle ILOM CLI** で、次のように入力します。 **reset /System**  
BIOS 画面が表示されます。

注- 次のイベントはすぐに発生するため、次の手順では注意する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

- 3 **F8**を押して、一時ブートデバイスを指定します。  
「Please Select Boot Device」メニューが表示され、使用可能なブートデバイスが一覧表示されます。
- 4 「**Boot Device**」メニューで、使用しているネットワークインストールサーバーと通信できるように構成されている **PXE** インストールブートデバイス (物理ポート) を選択して、**Enter** を押します。  
ネットワークブートローダーが読み込まれ、ブートプロンプトが表示されます。タイムアウトしてインストールカーネルの読み込みが開始されるまで5秒待ちます。  
最初の SUSE Linux ブート画面が表示されます。
- 5 インストールを続けるには、[32 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 SP1 のインストール」](#)の手順5からの手順を実行します。

## SLES インストール後のタスク

SLES のインストールの完了後、次のインストール後のタスクを確認し、必要に応じて、使用しているシステムで該当するタスクを実行するようにしてください。

- [39 ページの「SLES オペレーティングシステムの更新」](#)
- [40 ページの「TPM のサポートの構成」](#)

## SLES オペレーティングシステムの更新

SLES OS のインストールメディアには、最新バージョンのオペレーティングシステムが含まれていない場合があります。次の手順では、サーバーの SLES OS を更新する方法について説明します。

### ▼ SLES オペレーティングシステムの更新

- 1 SLES サーバーにスーパーユーザーとしてログインします。
- 2 次のコマンドを入力して、YaST オンライン更新を実行します。

```
# you
```

YaST はテキストモードとグラフィカルモードの両方で動作します。ここでの指示は、両方に適用されます。

- 3 サーバーがネットワークファイアウォールで保護されていて、インターネットにアクセスするためにプロキシサーバーを使用する必要がある場合は、まず正しいプロキシ情報で **YaST** を構成する必要があります。
  - a. 「**Network Services**」タブを選択してから、右側の「**Proxy**」画面を選択します。HTTP フィールドと HTTPS フィールドの両方に、正しいプロキシの URL を入力します。

---

注 - ネットワーク HTTP または HTTPS プロキシを介してオンライン update サービスを正常に機能させるために、次の追加の構成手順を実行する必要があります。

---
  - b. **YaST** ユーティリティーを終了して、次のコマンドを実行します。

```
run set-prefs proxy-url proxy_URL
```

ここでは、*proxy\_URL* は、プロキシサーバーの完全修飾 URL です (たとえば、`http://proxy.yourdomain:3128/`)。
  - c. コマンドの実行の成功後に、**YaST** を再度起動します。
- 4 **Novell Customer Center** に登録します。

---

注 - Novell Customer Center のユーザー名とパスワード、および SLES 製品のアクティベーションコードが必要です。

---

- a. 「**Software**」タブを選択します。
  - b. 「**Novell Customer Center Configuration**」を選択し、指示に従います。
- 5 登録後、「**Online Update**」タブを選択して、ソフトウェアの更新を実行します。

## TPM のサポートの構成

SLES OS に用意されている Trusted Platform Module (TPM) 機能セットを使用する場合は、この機能をサポートするようにサーバーを構成する必要があります。手順については、各サーバーモデルのサービスマニュアルを参照してください。

- Sun Server X2-4 サーマニュアル

---

注 - TPM を使用すると、サーバーの TPM セキュリティーハードウェアを管理できません。この機能の実装については、SUSE Linux Enterprise Server OS に用意されている TPM のドキュメントを参照してください。

---



## Red Hat Enterprise Linux のインストール

---

この章では、x86 (64 ビット) 版 Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5 と 6.0、および Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストールについて説明します。

---

注 - サーバーに RHEL オペレーティングシステムをインストールする場合は、Oracle Hardware Installation Assistant を使用することを強くお勧めします。このインストールアシスタントを使用すると、必要に応じて、デバイスドライバをインストールできます。Oracle Hardware Installation Assistant を使用してオペレーティングシステムをインストールする方法については、第 1 章「[Oracle Hardware Installation Assistant を利用した OS のインストール](#)」を参照してください。

---

この章は、次の項目で構成されています。

- 41 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール」
- 44 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール」
- 47 ページの「RHEL インストール後のタスク」
- 47 ページの「Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール」

### ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール

次の手順では、ローカルメディアまたはリモートメディアから、RHEL 5.5 または 6.0 オペレーティングシステムのインストールをブートする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから RHEL のインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- RHEL 5.5 または 6.0 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)

- RHEL 5.5 または 6.0 以降のリリースの ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

---

注 - PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[44 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール」](#)で手順を確認してください。

---

RHEL のインストール方法については、次にある RHEL ドキュメントコレクションを参照してください。

<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/>

## 始める前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- オペレーティングシステムをインストールするための該当するインストール前提条件をすべて満たしている必要があります。これらの前提条件については、[第2章「はじめに」](#)を参照してください。
- インストールの実行前に、使用するインストール方法 (コンソール、ブートメディア、インストール先など) を決定して、設定が完了している必要があります。これらの設定に関する要件については、[付録 A「サポートされるインストール方法」](#)を参照してください。

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要なタスクを確認して実行する必要があります。詳細については、[47 ページの「RHEL インストール後のタスク」](#)を参照してください。

### ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した **RHEL 5.5** または **6.0** のインストール

- 1 インストールメディアをブートできることを確認します。
  - ディストリビューション CD/DVD の場合。ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、Red Hat 5.5 または 6.0 ディストリビューションメディアのブートディスク (番号 1 が付いた CD または単一の DVD) を挿入します。
  - ISO イメージの場合。ISO イメージが使用できることと、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションでブートディスクイメージ (番号 1 が付いた CD、または DVD) が選択されていること (「Devices」メニュー>「CD-ROM Image」) を確認します。

- インストールメディアを設定する方法の詳細については、[付録 A 「サポートされるインストール方法」](#) を参照してください。

## 2 サーバーの電源をリセットします。

---

注- 次の手順では、Oracle ILOM 3.1 コマンド構文を使用します。Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> で Oracle ILOM 3.0 ドキュメントコレクションを参照してください。

---

例:

- **Oracle ILOM Web** インタフェースから、ナビゲーションツリーで「**Host Management**」>「**Power Control**」を選択します。次に、「**Select Action**」リストボックスから「**Reset**」を選択して、「**Save**」をクリックします。
- ローカルサーバーの場合、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、次にもう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を投入します。
- サーバー **SP** の **Oracle ILOM CLI** で「**reset /System**」と入力します。

BIOS 画面が表示されます。

---

注- 次のイベントがすぐに発生するため、次のステップでは集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

## 3 BIOS 画面で、F8 を押して、RHEL のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。

## 4 「Boot Device」メニューで、最初のブートデバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter を押します。

「Boot」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。

数秒後、RHEL インストールのスプラッシュ画面が表示されます。スプラッシュ画面の下半分に、説明、ファンクションキー、およびブートプロンプトが表示されます。

## 5 Red Hat Enterprise Linux のスプラッシュ画面で、「Next」をクリックして標準的な対話式インストールを続けます。

または、テキストモードで、次のコマンドを入力します。

boot: **linux text**

- 6 画面上の指示と Red Hat のドキュメントに従って、Red Hat インストールの基本設定を続行します。

詳細なインストール手順については、次の場所にある『Red Hat Enterprise Linux: インストールガイド』を参照してください。

<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise>

---

注 - Oracle Solaris OS または Oracle VM がディスクにインストール済みの場合は、ディスクをパーティションに分割してインストール済みの OS を削除したり、インストール済みの OS を削除せずにディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートしたりすることもできます。

---

- 7 Red Hat インストールの基本設定が完了したら、次に示すインストール後のタスクを実行します。
  - a. 自動更新を行うようにシステムを構成します。

詳細は、Red Hat のドキュメントを参照してください。
  - b. 必要な場合は、RHEL 5.5 または 6.0 用の最新の訂正とバグ修正をダウンロードしてインストールします。

詳細は、Red Hat のドキュメントを参照してください。
  - c. この章の後半で説明する、インストール後のタスクを確認し、必要に応じて実行します。

[47 ページの「RHEL インストール後のタスク」](#)を参照してください。

## PXE ネットワーク環境を使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール

このセクションでは、PXE ネットワーク環境から RHEL 5.5 または 6.0 をブートする方法について説明します。次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- RHEL 5.5 または 6.0 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- RHEL 5.5 または 6.0 以降のリリースの ISO DVD イメージまたは KickStart イメージ (ネットワークリポジトリ)

---

注 - KickStart は、Red Hat の自動インストール方法です。これによりシステム管理者は、通常は一般的な Red Hat Linux のインストール中に入力される、インストールと構成のパラメータの一部またはすべての設定を含めた、単一のイメージを作成できます。通常、KickStart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストール時に複数のシステムによって読み取られます。

---

## 始める前に

RHEL PXE インストールを実行する前に、次の要件を満たす必要があります。

- KickStart イメージを使用してインストールを行う場合、次の操作が必要です。
  - KickStart ファイルを作成します。
  - KickStart ファイルを含むブートメディアを作成したり、ネットワーク上で KickStart ファイルを使用したりできるようにします。

<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise> にある『Red Hat Enterprise Linux: System Administration Guide』の KickStart インストール手順に従ってください。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の操作が必要です。
  - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。
  - PXE のブートに必要なファイルを TFTP サーバー上に構成します。
  - PXE 構成からブートするように Sun Server X2-4 の MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
  - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を構成します。

次の場所にある『Red Hat Enterprise Linux: システム管理者ガイド』の PXE ネットワークインストール手順に従ってください。

<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise>

### ▼ PXE ネットワークブートを使用した **RHEL 5.5** または **6.0** のインストール

- 1 PXE ネットワーク環境が正しく設定され、RHEL のインストールメディアを PXE ブートで利用できることを確認します。
- 2 サーバーの電源をリセットします。

---

注- 次の手順では、Oracle ILOM 3.1 コマンド構文を使用します。Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> で Oracle ILOM 3.0 ドキュメントコレクションを参照してください。

---

例:

- **Oracle ILOM Web** インタフェースから、ナビゲーションツリーで「**Host Management**」 > 「**Power Control**」を選択します。次に、「**Select Action**」リストボックスから「**Reset**」を選択して、「**Save**」をクリックします。
- ローカルサーバーの場合、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、次にもう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を投入します。
- サーバー **SP** の **Oracle ILOM CLI** で「**reset /System**」と入力します。

BIOS 画面が表示されます。

---

注- 次のイベントがすぐに発生するため、次のステップでは集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

- 3 BIOS 画面で **F8** キーを押して、一時ブートデバイスを指定します。  
「Please Select Boot Device」メニューが表示され、使用可能なブートデバイスが一覧表示されます。
- 4 「**Boot Device**」メニューで、**PXE** ネットワークインストールサーバーと通信するように構成されたネットワークポートを選択します。  
ネットワークブートローダーが読み込まれ、ブートプロンプトが表示されます。数秒後、インストールカーネルの読み込みが開始されます。
- 5 インストールを完了するには、**42 ページ**の「**ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL 5.5 または 6.0 のインストール**」の手順**5**を参照してください。

## RHEL インストール後のタスク

RHEL のインストールの完了後、次のインストール後のタスクを確認し、必要に応じて、使用しているシステムに該当するタスクを実行するようにしてください。

- 47 ページの「RHEL の登録と自動更新の有効化」
- 47 ページの「TPM のサポートの構成」

## RHEL の登録と自動更新の有効化

RHEL のインストール後、ソフトウェアの自動更新を受信するために、RHEL サブスクリプションを有効にするようにしてください。詳細は、次の場所にある Red Hat Linux のサポートを参照してください。

<http://www.redhat.com/apps/support/>

## TPM のサポートの構成

RHEL に用意されている Trusted Platform Module (TPM) 機能セットを使用する場合は、この機能をサポートするようにサーバーを構成する必要があります。手順については、各サーバーモデルのサービスマニュアルを参照してください。

- Sun Server X2-4 サービスマニュアル

---

注-TPM を使用すると、サーバーの TPM セキュリティーハードウェアを管理できません。この機能の実装については、Red Hat Enterprise Linux に用意されている TPM のドキュメントを参照してください。

---

## Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール

RHEL 5.5 または 6.0 のインストール後に、Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールして使用できます。インストール手順については、27 ページの「ローカルまたはリモートコンソールを使用した Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux のインストール」を参照してください。





## サーバーファームウェアとソフトウェアの入手

---

このセクションでは、サーバーのファームウェアとソフトウェアにアクセスするためのオプションについて説明します。

- 49 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」
- 50 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション」
- 50 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」
- 51 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセス」
- 55 ページの「更新のインストール」

## ファームウェアとソフトウェアの更新

サーバー用のハードウェアドライバやツールなどのファームウェアおよびソフトウェアは、定期的に更新されます。これらは、ソフトウェアリリースとして入手可能になります。ソフトウェアリリースは、サーバー用の使用可能なファームウェア、ハードウェアドライバ、ユーティリティをすべて含んだ一連のダウンロード(パッチ)です。これらはすべてまとめてテストされています。ダウンロードに含まれる ReadMe ドキュメントには、以前のソフトウェアリリースからの変更点および変更されていない点について説明されています。

サーバーのファームウェアとソフトウェアは、ソフトウェアリリースが入手可能になり次第、更新してください。ソフトウェアリリースにはしばしばバグの修正が含まれるため、更新により、サーバーソフトウェアと、最新のサーバーファームウェアおよびほかのコンポーネントのファームウェアとソフトウェアとの互換性が保証されます。

ダウンロードパッケージ内の ReadMe ファイルには、ダウンロードパッケージ内の更新されたファイル、および現在のリリースで修正されたバグに関する情報が含まれます。プロダクトノートには、サポートされるサーバーソフトウェアのバージョンに関する情報も含まれます。

## ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション

次のオプションのいずれかを使用して、使用するサーバー用の最新ファームウェアおよびソフトウェアセットを入手します。

- **Oracle Hardware Installation Assistant** – Oracle Hardware Installation Assistant は Sun Server X2-4 の出荷時にインストール済みの機能で、サーバーファームウェアおよびソフトウェアを簡単に更新できるようにします。
- Oracle Hardware Installation Assistant の詳細については、『Oracle Hardware Installation Assistant 2.5 ユーザーガイド x86 サーバー版』(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia>) を参照してください。
- **My Oracle Support** – すべてのシステムファームウェアおよびソフトウェアは、My Oracle Support Web サイトから入手できます。  
My Oracle Support Web サイトで入手可能なものの詳細については、<http://support.oracle.com> を参照してください。  
My Oracle Support からソフトウェアリリースをダウンロードする方法については、51 ページの「[My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード](#)」を参照してください。
- 物理メディアのリクエスト (PMR) – My Oracle Support から入手可能なダウンロード (パッチ) を含む DVD をリクエストできます。  
詳細は、52 ページの「[物理メディアのリクエスト](#)」を参照してください。

## 入手可能なソフトウェアリリースパッケージ

My Oracle Support では、ダウンロードは製品ファミリ、製品、およびバージョン別にグループ分けされています。バージョンには1つ以上のダウンロード (パッチ) が含まれます。

サーバーとブレードの場合、パターンは似ています。製品はサーバーです。サーバーごとにリリースセットが含まれます。これらのリリースは、実際のソフトウェア製品リリースではなく、サーバーの更新リリースのことです。これらの更新はソフトウェアリリースと呼ばれ、まとめてテスト済みの複数のダウンロードで構成されます。各ダウンロードには、ファームウェア、ドライバ、またはユーティリティが含まれます。

次の表に示すように、My Oracle Support には、このサーバーファミリ向けの同じダウンロードタイプのセットが含まれます。これらは物理メディアのリクエスト (PMR) によってリクエストすることもできます。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードする タイミング
X4470 M2 SERVER SW 1.3 – ILOM_AND_BIOS	Oracle ILOM および BIOS。	最新のプラットフォーム ファームウェアが必要です。
X4470 M2 SERVER SW 1.3 – ORACLE_HARDWARE_ INSTALLATION_ASSISTANT	Oracle Hardware Installation Assistant の回復と ISO 更新イ メージ。	Oracle Hardware Installation Assistant を手動で回復するか 更新する必要があります。
X4470 M2 SERVER SW 1.3 – TOOLS_DRIVERS_AND_ FIRMWARE_DVD	ツールおよびドライバおよび プラットフォームファーム ウェアが含まれます。この DVD イメージには Oracle VTS は含まれません。	システムファームウェアと OS 固有のソフトウェアの組み合 わせを更新する必要があります。
X4470 M2 SERVER SW 1.0 – DIAGNOSTICS	Oracle VTS 診断イ メージ。	Oracle VTS 診断イ メージが必 要です。

## ファームウェアとソフトウェアへのアクセス

このセクションでは、ソフトウェアリリースファイルをダウンロードまたはリクエ  
ストする方法について説明します。次を参照してください。

- 51 ページの「My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウ  
ンロード」
- 52 ページの「物理メディアのリクエスト」

### ▼ My Oracle Support を使用したファームウェアとソ フトウェアのダウンロード

- 1 Web サイト <http://support.oracle.com> にアクセスします。
- 2 My Oracle Support にサインインします。
- 3 ページ上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。  
「パッチと更新版」画面が表示されます。
- 4 「検索」画面で、「製品またはファミリ (拡張)」をクリックします。  
画面に検索フィールドが表示されます。
- 5 「製品」フィールドで、ドロップダウンリストから製品を選択します。  
あるいは、目的の製品が表示されるまで製品名のすべてまたは一部 (Sun Server X2-4  
など) を入力します。

- 6 「リリース」フィールドで、ドロップダウンリストからソフトウェアリリースを選択します。  
使用可能なすべてのソフトウェアリリースを表示するには、フォルダを展開します。
- 7 「検索」をクリックします。  
ソフトウェアリリースは、ダウンロード (パッチ) のセットで構成されます。  
入手可能なダウンロードについての詳細は、[50 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」](#)を参照してください。
- 8 パッチを選択するには、パッチ名の横にあるチェックボックスをクリックします。(Shift キーを使用すると複数のパッチを選択できます。)  
アクションパネルがポップアップ表示されます。このパネルには複数のアクションのオプションが表示されます。
- 9 更新をダウンロードするには、ポップアップパネルの「ダウンロード」をクリックします。  
「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスが表示されます。
- 10 「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスで、パッチの **zip** ファイルをクリックします。  
パッチファイルがダウンロードされます。

## 物理メディアのリクエスト

Oracle Web サイトからダウンロードできない場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) で最新のソフトウェアリリースを入手できます。

次の表に、物理メディアをリクエストするためのハイレベルタスク、および詳細情報の入手先のリンクを示します。

説明	リンク
リクエストに必要な情報を収集します。	<a href="#">53 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」</a>
オンラインまたは Oracle サポートに電話して物理メディアをリクエストします。	<a href="#">53 ページの「物理メディアのリクエスト (オンライン)」</a> <a href="#">54 ページの「物理メディアのリクエスト (電話)」</a>

## 物理メディアのリクエスト用の情報を収集する

物理メディアのリクエスト (PMR) を行うには、サーバーの保証またはサポート契約が必要です。

PMR を実行する前に、次の情報を収集します。

製品名、ソフトウェアリリースのバージョン、および必須パッチを入手します。最新のソフトウェアリリースおよびリクエストしているダウンロードパッケージ (パッチ) の名前を知っていると、リクエストを実行しやすくなります。

- *My Oracle Support* にアクセスできる場合 - 51 ページの「[My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード](#)」の指示に従って、最新のソフトウェアリリースを確認し、入手可能なダウンロード (パッチ) を表示します。パッチのリストを表示したあと、ダウンロード手順を続行しない場合は「パッチ検索結果」ページからほかのページに移動できます。
- *My Oracle Support* にアクセスできない場合 - 50 ページの「[入手可能なソフトウェアリリースパッケージ](#)」に記載された情報を参照して、目的のパッケージを確認し、最新のソフトウェアリリース向けのパッケージをリクエストします。
- 出荷情報を手元に用意します。リクエストの際に、連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所を入力する必要があります。

### ▼ 物理メディアのリクエスト (オンライン)

始める前に リクエストを行う前に、53 ページの「[物理メディアのリクエスト用の情報を収集する](#)」に記載の情報を収集してください。

- 1 次の Web サイトにアクセスします:<http://support.oracle.com>。
- 2 **My Oracle Support** にサインインします。
- 3 ページの右上の「問合せ先」リンクをクリックします。
- 4 「リクエストの説明」セクションに、次の情報を入力します。
  - a. 「リクエスト・カテゴリ」ドロップダウンメニューで、次を選択します。  
ソフトウェアおよび OS メディアリクエスト
  - b. 「リクエスト・サマリー」フィールドに、「**Sun Server X2-4** の最新ソフトウェアリリースの **PMR**」と入力します。
- 5 「リクエスト詳細」セクションで、次の表に示されている質問に回答します。

質問	回答
メディアの入手をご希望ですか。	はい
どちらの製品ラインのメディアをご希望でしょうか。	Sun 製品
パッチをダウンロードするためのパスワードに関する問い合わせでしょうか。	いいえ
CDやDVDでパッチをご希望ですか。	はい
パッチをCDやDVDでご希望の場合、パッチの番号、OSとプラットフォームをお知らせください。	希望するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力してください。
ご希望の製品名とバージョンをお知らせください。	製品名: Sun Server X2-4 バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号
希望されているメディアのOSとプラットフォームをお知らせください。	OS固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここでOSを指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「一般」と入力します。
メディアに言語は必要ですか。	いいえ

- 6 出荷先担当者の連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所の情報を入力します。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「ファイルのアップロード」の「関連ファイル」画面で「次へ」をクリックします。  
情報を指定する必要はありません。
- 9 「関連ナレッジ」画面で、リクエストに該当するナレッジ記事を確認します。
- 10 「送信」をクリックします。

## ▼ 物理メディアのリクエスト(電話)

始める前に リクエストを行う前に、53 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」に記載の情報を収集してください。

- 1 次の **Oracle Global Customer Support Contacts Directory** にある該当する番号を使用して、**Oracle** サポートに電話をかけます。

<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>

- 2 **Oracle** サポート部門に、**Sun Server X2-4** の物理メディアのリクエスト (PMR) を行いたい旨を知らせます。
  - My Oracle Support から特定のソフトウェアリリースおよびパッチ番号の情報にアクセスできる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。
  - ソフトウェアのリリース情報にアクセスできない場合は、**Sun Server X2-4** の最新のソフトウェアリリースをリクエストします。

## 更新のインストール

次のセクションでは、ファームウェアとソフトウェアの更新のインストールに関する情報を提供します。

- [55 ページの「ファームウェアのインストール」](#)
- [56 ページの「ハードウェアドライバと OS ツールのインストール」](#)

## ファームウェアのインストール

更新されたファームウェアは、次のいずれかの方法でインストールできます。

- **Oracle Hardware Installation Assistant** – Oracle Hardware Installation Assistant は Oracle から最新のファームウェアをダウンロードし、インストールできます。
- Oracle Hardware Installation Assistant の詳細については、『Oracle Hardware Installation Assistant 2.5 ユーザーガイド x86 サーバー版』(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=hia>) を参照してください。
- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – Ops Center Enterprise Controller では、Oracle から自動的に最新のファームウェアをダウンロードするか、Enterprise Controller 内にファームウェアを手動でロードできます。どちらの場合も、Ops Center が 1 つ以上のサーバー、ブレード、またはブレードシャーシ上にファームウェアをインストールできます。

詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。

- **Oracle Hardware Management Pack** – Oracle Hardware Management Pack 内の fwupdate CLI ツールを使用すると、システム内部のファームウェアを更新できます。

詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp> で Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリを参照してください。

- **Oracle ILOM** – Oracle ILOM および BIOS ファームウェアは、Oracle ILOM Web インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使用して更新可能な唯一のファームウェアです。

詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> の Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメントライブラリを参照してください。

Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 のドキュメントライブラリは <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31> でアクセスできます。

## ハードウェアドライバと **OS** ツールのインストール

Oracle Hardware Management Pack などの、更新されたハードウェアドライバおよびオペレーティングシステム (OS) 関連のツールは、次のいずれかを使用してインストールできます。

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center**

詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。

- KickStart、AutoYaST などのその他の配備メカニズム。

詳細は、オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。



## パート II

# Linux システム管理者のためのリファレンス

必要に応じて次のシステム管理者リファレンスを参照し、Linux オペレーティングシステムのインストールを実行または完了してください。

説明	リンク
Linux インストールプログラムを配備するためのインストール環境の選択およびセットアップ手順	<a href="#">付録 A 「サポートされるインストール方法」、インストール方法</a>
本書の発行時点に Server X2-4 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの完全なリスト	<a href="#">付録 B 「サポートされているオペレーティングシステム」、サポートされているオペレーティングシステム</a>
Linux のインストールを実行する前に、BIOS のデフォルトプロパティーが設定されていることを確認する手順	<a href="#">付録 C 「新規インストール時の BIOS のデフォルト設定」、新規インストール時の BIOS のデフォルト設定</a>





## サポートされるインストール方法

---

サーバーに Linux オペレーティングシステムをインストールする最適な方法を決定するには、この付録で説明している次の内容を検討してください。

- [59 ページの「コンソール出力」](#)
- [61 ページの「インストールブートメディア」](#)
- [64 ページの「インストール先」](#)

### コンソール出力

[表 A-1](#) に、オペレーティングシステムをインストールする際の出力と入力を表示するためのコンソールを一覧表示します。

表 A-1 OS インストールを実行する際のコンソールオプション

コンソール	説明	設定要件
ローカルコンソール	<p>ローカルコンソールをサーバー SP に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。</p> <p>ローカルコンソールの例として、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ シリアルコンソール</li><li>■ VGA コンソール (USB キーボードおよびマウスを使用)</li></ul>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. ローカルコンソールをサーバーに接続します。 詳細は、『Sun Server X2-4 設置ガイド』の「サーバーへのケーブルの接続」を参照してください。</li><li>2. Oracle ILOM プロンプトで、Oracle ILOM ユーザー名とパスワードを入力します。</li><li>3. シリアルコンソール接続の場合のみ、<b>start /SP/console</b> と入力して、ホストのシリアルポートとの接続を確立します。 ビデオ出力がローカルコンソールに自動的にルーティングされます。</li></ol> <p>サーバー SP との接続の確立方法については、<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31</a> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリを参照してください。</p> <p>Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30</a> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 のドキュメントライブラリにアクセスできます。</p>

表 A-1 OS インストールを実行する際のコンソールオプション (続き)

コンソール	説明	設定要件
リモートコンソール	<p>サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うことができます。</p> <p>リモートコンソールの例には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続</li> <li>■ シリアルコンソールを使用した SSH クライアント接続</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サーバー SP の IP アドレスを確立します。 詳細は、『Sun Server X2-4 設置ガイド』を参照してください。</li> <li>2. リモートコンソールとサーバー SP の間の接続を確立します。 <b>Web</b> ベースのクライアント接続の場合は、次の手順を実行します。1) Web ブラウザにサーバー SP の IP アドレスを入力します。2) Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。3) Oracle ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。4) 「Device」メニューでデバイスの切り替え (マウス、キーボードなど) を有効にします。 <b>SSH</b> クライアント接続の場合は、次の手順を実行します。1) シリアルコンソールからサーバー SP への SSH 接続を確立します (<code>ssh root@ILOM_SP_ipaddress</code>)。2) Oracle ILOM コマンド行インタフェースにログインします。3) <code>start /SP/console</code> と入力してサーバーから SSH クライアントへシリアル出力をリダイレクトします。</li> </ol> <p>ILOM SP へのリモート接続の確立や ILOM リモートコンソールの使用については、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 または 3.1 のドキュメントライブラリを参照してください。</p>

## インストールブートメディア

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートします。表 A-2 に、サポートされているメディアソースおよび各ソースのセットアップ要件を示します。

表 A-2 OS インストール実行のためのブートメディアオプション

インストールメディア	説明	設定要件
ローカルブートメディア	<p>ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。</p> <p>サポートされている OS のローカルブートメディアソースには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ CD/DVD-ROM または USB インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア</li></ul>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 使用しているサーバーに組み込み型ストレージデバイスがない場合は、サーバーの前面または背面のパネルに適切なストレージデバイスを接続します。</li><li>2. ローカルデバイスをサーバーに接続する方法については、『Sun Server X2-4 設置ガイド』の「サーバーへのケーブルの接続」を参照してください。</li></ol>

表 A-2 OS インストール実行のためのブートメディアオプション (続き)

インストールメディア	説明	設定要件
リモートブートメディア	<p>リモートメディアでは、ネットワークを介してインストールをブートする必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上にインストールをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。</p> <p>サポートされている OS のリモートメディアソースには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア</li> <li>■ CD/DVD-ROM の ISO インストールイメージ、および該当する場合はフロッピーの ISO デバイスドライバメディア</li> <li>■ 自動インストールイメージ (PXE ブートが必要)</li> </ul>	<p>リモートストレージデバイスからブートメディアをリダイレクトするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブートメディアを、次のようなストレージデバイスに挿入します。  <b>CD/DVD-ROM</b> の場合、内蔵または外付け CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。  <b>CD/DVD-ROM ISO</b> イメージの場合、ネットワーク共有された場所で ISO イメージがすぐに利用できることを確認します。            デバイスドライバフロッピーメディア (該当する場合) の場合、フロッピーメディアを外付けのフロッピードライブに挿入します。            デバイスドライバフロッピーの <b>ISO</b> イメージの場合、ISO イメージが (該当する場合) ネットワーク共有された場所または USB ドライブ上ですぐに利用できることを確認します。</li> <li>2. サーバー Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。詳細は、表 A-1 に示す Web ベースのクライアント接続に関する設定要件を参照してください。</li> <li>3. Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Devices」メニューで、次のようなブートメディアの場所を指定します。  <b>CD/DVD-ROM</b> ブートメディアの場合は、「CD-ROM」を選択します。  <b>CD/DVD-ROM ISO</b> イメージブートメディアの場合は、「CD-ROM Image」を選択します。            フロッピーデバイスドライバブートメディアの場合は、「Floppy」を選択します (該当する場合)。            フロッピーイメージのデバイスドライバブートメディアの場合は、「Floppy Image」を選択します (該当する場合)。</li> </ol> <p>Oracle ILOM リモートコンソールの詳細は、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 または 3.1 のドキュメントライブラリを参照してください。</p>

表 A-2 OS インストール実行のためのブートメディアオプション (続き)

インストールメディア	説明	設定要件
リモートブートメディア (続き)	注- 自動インストールイメージを使用すると、複数のサーバーでOSのインストールを実行できます。自動イメージを使用すると、複数のシステム間で構成を統一できます。自動インストールでは、PXE (Pre-boot eXecution Environment) テクノロジを使用することで、クライアントはオペレーティングシステムなしでオペレーティングシステムのインストールを実行する自動インストールサーバーにリモートでブートできます。	<p>PXEを使用してインストールを実行するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. PXE ブート経由でインストールをエクスポートするようにネットワークサーバーを構成します。</li><li>2. OS インストールメディアをPXE ブートで利用できるようにします。 自動OSインストールイメージを使用する場合は、次のような自動OSインストールイメージを作成する必要があります。 - RHEL KickStart イメージ - SLES AutoYaST イメージ インストールのセットアッププロセスを自動化する方法については、オペレーティングシステムベンダーのドキュメントを参照してください。</li><li>3. インストールメディアをブートするには、一時ブートデバイスとしてPXE ブートインタフェースカードを選択します。</li></ol>

## インストール先

表 A-3 に、オペレーティングシステムのインストールに使用できる、サポートされるインストール先を示します。

表 A-3 OS インストールのインストール先

インストール先	説明	設定要件	サポートされる OS
ローカルハードディスクドライブ (HDD) または ソリッドステートドライブ (SSD)	サーバーに取り付けられているハードディスクドライブまたは半導体ドライブはどれでも、オペレーティングシステムのインストール先として選択できます。	<p>HDD または SSD がサーバーに正しく取り付けられていて、電源が入っていることを確認します。</p> <p>HDD または SSD の取り付けおよび電源の投入方法については、『Sun Server X2-4 サービスマニュアル』を参照してください。</p>	付録 B 「サポートされているオペレーティングシステム」に示す、サポートされているすべてのオペレーティングシステム。



表 A-3 OS インストールのインストール先 (続き)

インストール先	説明	設定要件	サポートされる OS
ファイバチャネル (FC) Storage Area Network (SAN) デバイス	ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けの FC ストレージデバイスにインストールすることも選択できます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ サーバーに FC PCIe HBA が正しく取り付けられていることを確認します。サーバーへの PCIe HBA オプションの取り付け方法については、『Sun Server X2-4 サービスマニュアル』を参照してください。</li> <li>■ ホストでストレージを認識できるように SAN を設置および構成します。手順については、FC HBA に付属のドキュメントを参照してください。</li> </ul>	付録 B 「サポートされているオペレーティングシステム」に示す、すべてのオペレーティングシステム。



## サポートされているオペレーティングシステム

---

この付録の表 B-1 では、このドキュメントの発行時に Sun Server X2-4 でサポートされているオペレーティングシステムについて説明します。

Sun Server X2-4 でサポートされているオペレーティングシステムの最新リストについては、Sun x86 サーバーの Web サイトにアクセスして、Sun Server X2-4 のページに移動してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>

## サポートされているオペレーティングシステム

Oracle の Sun Server X2-4 は、次のオペレーティングシステムまたはそれ以降のリリースのインストールと使用をサポートします。

表 B-1 サポートされているオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	サポートされているバージョン	追加情報
Linux	Oracle Linux 5.5 - 6.2 (64 ビット)	■ 第 3 章「Oracle Linux のインストール」 (Oracle Linux)
	Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux 5.6 - 6.1	
	Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5 - 6.0 (64 ビット)	■ 第 4 章「SUSE Linux Enterprise Server のインストール」 (SLES)
	SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP1 (64 ビット)	
	SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP2 (64 ビット)	■ 第 5 章「Red Hat Enterprise Linux のインストール」 (RHEL)

表 B-1 サポートされているオペレーティングシステム (続き)

オペレーティングシステム	サポートされているバージョン	追加情報
Solaris	<ul style="list-style-type: none"><li>■ Oracle Solaris 11 11/11</li><li>■ Oracle Solaris 10 8/11</li><li>■ Oracle Solaris 10 9/10</li></ul>	■ Sun Server X2-4 Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド
Oracle VM ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"><li>■ Oracle VM 2.2.1 - 3.0.3</li></ul>	■ Sun Server X2-4 Oracle VM ソフトウェアインストールガイド
Windows	<ul style="list-style-type: none"><li>■ Microsoft Windows Server 2008 SP2、Standard Edition (64 ビット)</li><li>■ Microsoft Windows Server 2008 SP2、Enterprise Edition (64 ビット)</li><li>■ Microsoft Windows Server 2008 SP2、Datacenter Edition (64 ビット)</li><li>■ Microsoft Windows Server 2008 R2、SP1 (64 ビット)</li><li>■ Microsoft Windows Server 2008 R2、Standard Edition (64 ビット)</li><li>■ Microsoft Windows Server 2008 R2、Enterprise Edition (64 ビット)</li><li>■ Microsoft Windows Server 2008 R2、Datacenter Edition (64 ビット)</li></ul>	■ Sun Server X2-4 Windows オペレーティングシステムインストールガイド

## 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定

---

ストレージドライブに新しいオペレーティングシステムをインストールする場合は、オペレーティングシステムのインストールを実行する前に、次の BIOS 設定が適切に構成されていることを確認するようにしてください。

- システム時間
- システム日付
- ブート順序

## BIOS の出荷時デフォルト設定の確認

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて BIOS 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。BIOS 設定ユーティリティ (F2 キー) で変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集できるほか、BIOS の起動中に F8 キーを使用することで、一時ブートデバイスを指定できます。F8 キーを使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスでブートしたあとは、F2 キーで指定した常時ブートデバイスが有効になります。

## 始める前に

BIOS 設定ユーティリティにアクセスする前に、次の要件を満たしていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) が搭載されています。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されています。詳細は、『Sun Server X2-4 サービスマニュアル』を参照してください。

- サーバーへのコンソール接続が確立されています。詳細は、表 A-1 を参照してください。

## ▼ 新規インストール時の BIOS 設定の表示または編集

- 1 サーバーの電源をリセットします。

---

注- 次の手順では、Oracle ILOM 3.1 コマンド構文を使用します。Oracle ILOM 3.0 を使用している場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30> で Oracle ILOM 3.0 ドキュメントコレクションを参照してください。

---

例:

- **ILOM Web** インタフェースのナビゲーションツリーで、「**Management**」 > 「**Power Control**」を選択します。次に、「**Select Action**」リストボックスから「**Reset**」を選択して、「**Save**」をクリックします。
- ローカルサーバーで、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒押し、サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。

- サーバー **SP** の **ILOM CLI** で、次のように入力します。 **reset /System**

BIOS 画面が表示されます。

- 2 BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、**F2** を押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

- 3 出荷時のデフォルト値に設定するために、次を実行します。

- a. **F9** を押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。

メッセージが表示され、「**OK**」を選択してこの操作を続けるか、「**CANCEL**」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。

- b. メッセージで「**OK**」を強調表示して、**Enter** を押します。

BIOS 設定ユーティリティ画面が表示され、システム時間フィールドの最初の値でカーソルが強調表示されます。

- 4 BIOS 設定ユーティリティーで次の手順を実行して、システム時間またはシステム日付に關係する値を編集します。
  - a. 変更する値を強調表示します。  
上下の矢印キーを使用して、システムの時間と日付の選択を変更します。
  - b. 強調表示されたフィールドの値を変更するには、次のキーを使用します。
    - プラス(+)を押すと、表示されている現在の値が増加します
    - マイナス(-)を使用すると、現在表示されている値が減少します
    - **Enter**を押すと、カーソルが次の値フィールドに移動します
- 5 ブート設定にアクセスするには、「**Boot**」メニューを選択します。  
「Boot Settings」メニューが表示されます。
- 6 「**Boot Settings**」メニューで、下矢印キーを使用して「**Boot Device Priority**」を選択し、**Enter**を押します。  
「Boot Device Priority」メニューが表示され、認識されているブートデバイスの優先順位が示されます。リストの先頭のデバイスが、ブートの優先度がもっとも高いデバイスです。
- 7 「**Boot Device Priority**」メニューで次の手順を実行して、リストの最初のブートデバイスエントリを編集します。
  - a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、**Enter**を押します。
  - b. 「**Options**」メニューで、上下矢印キーを使用してデフォルトの常時ブートデバイスを選択し、**Enter**を押します。  
「Boot」メニューおよび「Options」メニューに表示されるデバイス文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列の形式です。

---

注-変更する各デバイス項目に対して手順7aおよび7bを繰り返して、リスト内のほかのデバイスのブート順を変更できます。

---
- 8 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、**F10**を押します。  
または、「Exit」メニューで「SaveSave」を選択して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティーを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。メッセージダイアログで「OK」を選択して、**Enter**を押します。

---

注 - Oracle ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 はローカル OS にトラップされます。コンソールのいちばん上で使用できる「Keyboard」ドロップダウンメニューに一覧表示される F10 オプションを使用してください。

---



# 索引

---

## A

AutoYaST, SLES OS, 37

## B

BIOS, 新規インストール時の設定の検証, 16

## I

ISO イメージ

Oracle Linux OS, 21

RHEL OS, 42

SLES OS, 33

## K

KickStart, 25, 44

Oracle Linux OS, 25

RHEL OS, 44

## L

Linux OS, RAID ボリュームディスクの要件, 16

## O

Oracle Linux OS, 25

ISO イメージ, 21

Oracle Linux OS (続き)

PXE ネットワークインストール, 25

インストール後のタスク, 27

インストール方法, 21, 42

サーバーの電源リセット, 22

ローカルメディアまたはリモートメディアによるインストール, 20

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel

インストール, 27

説明, 19

## P

PXE インストール

Oracle Linux OS, 26

RHEL OS, 45

SLES OS, 38–39

## R

Red Hat Enterprise Linux, RHEL OS を参照, 41

RHEL OS, 44

ISO イメージ, 42

PXE ネットワークインストール, 44

一時ブートデバイス, 46

インストール後のタスク, 47

自動更新, 44

ブートディスクイメージ, 42

ローカルメディアまたはリモートメディアによるインストール, 41

## S

### SLES OS

- AutoYaST, 37
  - ISO イメージ, 33
  - PXE ネットワークインストール, 37
  - PXE ブート, 38-39
  - YaST オンライン更新, 39
  - インストール後のタスク, 39
  - インストール方法, 32
  - 更新, 39
  - サーバーの電源のリセット, 33, 38
  - 自動インストールの準備, 37
- SUSE Linux Enterprise Server, 「SLES OS」を参照, 31

## T

- Trusted Platform Module (TPM) 構成, 47
- Trusted Platform Module (TPM) の構成, 27, 40

## い

- 一時ブートデバイス
- Oracle Linux OS, 22
  - RHEL OS, 46
  - SLES OS, 33
- インストール後のタスク
- Oracle Linux OS, 27
  - RHEL OS, 47
  - SLES OS, 39
- インストール先, 64
- インストールブートメディア, 61

## さ

- サーバー
- 電源のリセット, 26, 33, 43, 45
  - 電源リセット, 22

## し

- 自動更新
- RHEL OS, 44
  - SLES OS, 39

## せ

- 製品の登録, RHEL OS, 47

## そ

- ソリッドステートドライブ、インストール先として, 64

## つ

- ツールとドライバのファームウェア, 17

## は

- ハードディスクドライブ、インストール先として, 64

## ふ

- ブートディスクイメージ
- Oracle Linux OS, 20
  - RHEL OS, 42
- ブートメディア, 62, 63

## り

- リモートコンソール、OS インストールに使用, 61

## ろ

- ローカルコンソール、OS インストールで使  
される, 60